

## 環境会計

環境会計とは事業活動における環境保全のためのコストと、その活動により得られた効果を認識し、可能な限り定量的に測定し伝達する仕組みです。

当社は、平成16年度より環境会計を導入しており、環境保全活動を評価する手段として活用しています。

平成20年度の環境保全のための投資額は約37億7千万円、費用額は約6億2千万円でした。

### 環境保全コスト

環境負荷の発生を防ぐ取り組みのコストを表示します。

#### ◆ 事業活動に応じた分類

分類		主な取り組み内容	投資	費用
(1) 事業エリア内コスト			3,770,058	591,053
内 訳	(1)-1 公害防止コスト	ロングレール化、レールの重量化などの線路の改良 分岐点の改良、防音車輪化など	82,156	115,200
	(1)-2 地球環境保全 コスト	省エネ車両の新造 表示灯LED化、車両用クーラー更新など	3,675,598	88,924
	(1)-3 資源循環コスト	廃棄物の処理・処分 蓄電池改良、廃切符のトイレトーパー化など	12,304	386,929
(2) 上・下流コスト		グリーン購入関係費用など	0	14,207
(3) 管理活動コスト		事務所緑地管理、法面・壁面緑化 CSR報告書2008作成、環境教育費用など	0	18,701
(4) 社会活動コスト		環境保全団体への寄付金、周辺の清掃活動など	0	390
合 計			3,770,058	624,351

#### ◆ 参考(事業内容別)

事業内容	投資	費用
鉄道事業	3,666,483	554,228
不動産事業 (土地経営 賃貸経営 都市開発)	103,575	7,329
レジャー (ひらかたパーク)	0	19,996
その他	0	42,798
合 計	3,770,058	624,351

### 環境保全効果

環境負荷の発生を防ぐ取り組みによる効果を物量単位で表示します。

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標(単位)	平成19年度	平成20年度	増減量(環境保全効果)
事業活動に投入する 資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量(GJ)	1,047,532	1,050,151	2,619
	電気(GJ)	1,020,362	1,022,160	1,797
	その他のエネルギー(GJ)	27,169	27,991	822
	水資源投入量(千m <sup>3</sup> )	516	492	△24
事業活動から排出する環境負荷 及び廃棄物に関する 環境保全効果	紙(千枚)	12,523	13,122	598
	温室効果ガス排出量(t-CO <sub>2</sub> )	158,944	159,273	329
	電気(t-CO <sub>2</sub> )	157,306	157,583	277
	その他エネルギー(t-CO <sub>2</sub> )	1,638	1,690	53
事業活動から産出する財の サービスに関する環境保全効果	廃棄物など総排出量(t)	4,101	3,818	△283
	鉄道利用促進(パーク&ライド※)実施に伴う負荷削減量 CO <sub>2</sub> 排出削減量(t-CO <sub>2</sub> )	28.5	29.6	1.1

※大津市パーク&ライド(京阪浜大津駅から京都東山地区へ鉄道を利用)の効果を推定し計算

### 環境保全に伴う経済効果

環境保全対策を進めた結果、当社収益に貢献した効果を貨幣単位で表示します。

効果の内容		金額	
収 益	廃棄物のリサイクル	7,913	
	使用済み製品の リサイクル	ボンドくず・被覆線くず・アルミくず・鉄くず・胴くずなど	29,628
		古レール・古レール付属品	2,074
		古車輪	52
		古金属すり板	83
		古機械器具	295
		古木まくらざ	12
費用節減	エネルギー費用の節減	△6,816	
合 計		33,241	

### 環境効率性指標

全社-CO <sub>2</sub> 排出量(t-CO <sub>2</sub> ) / 売上高(百万円)	2.07
鉄道電力消費量(千kWh) / 鉄軌道収入(百万円)	4.97

#### 集計方法

- (1) 期間は平成20年4月1日から平成21年3月31日です。
- (2) 範囲は当社、(株)京阪ビジネスマネジメント、(株)京阪ステーションマネジメントです。
- (3) 環境省「環境会計ガイドライン2007年度版」を参考にし、社団法人日本民営鉄道協会「民営事業環境会計ガイドライン2008年度版」に準拠しています。